

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 5 月 29 日現在

機関番号：14401

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2023

課題番号：20K12908

研究課題名（和文）17世紀における医学自然学雑誌の創刊に関する比較研究

研究課題名（英文）Comparative Study on the publication of the first journal of Medicine and Physica in the 17th Century

研究代表者

安西 なつめ（Anzai, Natsume）

大阪大学・大学院人文学研究科（人文学専攻、芸術学専攻、日本学専攻）・助教

研究者番号：10768576

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,000,000円

研究成果の概要（和文）：17世紀に神聖ローマ帝国で創刊された『医学自然学報』（1670-）と、デンマークで創刊された『コペンハーゲンの医学・哲学紀要』（1673-1680）を主資料として、雑誌に掲載された論考の主題や著者等をデータベース化し、比較、分析した。またフランスの『ジュルナル・デ・サヴァン』（1665-）とイギリスの『フィロソフィカル・トランザクションズ』（1665-）を加えた4誌間で論考の主題と著者の変遷等を比較し、雑誌間の引用・転載状況を確認した。本研究を通し『医学自然学報』および『コペンハーゲンの医学・哲学紀要』創刊の意義を指摘した上、両雑誌の医学-自然学雑誌としての先駆性を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究を通じて、17世紀後半に創刊された『医学自然学報』と『コペンハーゲンの医学・哲学紀要』との関連および両雑誌が以降の学術の展開に与えた影響を明らかにし、両国における雑誌創刊の経緯と意義を指摘することができた。

同時期に異なる国で刊行された雑誌の相違や影響を実証的に検証したことは、複数の国や地域にわたる学術上のネットワークにおいて、情報の公開および利用がどのようになされてきたかを明らかにするものであり、この点で近代の知識体系に雑誌が果たした役割について新たな知見を提供するものと考えられる。

研究成果の概要（英文）：This study compares and analyzes the subjects and the authors published in the *Miscellanea curiosa, sive ephemeridum medico-physicarum Germanicarum academiae naturae curiosorum* (1670-), first published in the Holy Roman Empire, and in the *Acta medica et philosophica Hafniensia* (1673-1680), first published in Denmark, in the 17th century. In addition, the *French Journal des savans* (1665-) and the *British Philosophical Transactions* (1665-) were also included in the study to clarify the changes in authorship and mutual citation and reprinting of articles among the four journals. Through this study, it was pointed out the significance of the first issue of *Miscellanea curiosa* and *Acta medica et philosophica Hafniensia* and clarified the pioneering role of both journals as *medica* and *physica* journals.

研究分野：医学史

キーワード：医学史 科学史 17世紀 初期近代 トマス・バルトリン デンマーク 神聖ローマ帝国 雑誌創刊

## 1. 研究開始当初の背景

ヨーロッパでは17世紀後半に各地で学会の設立や雑誌の創刊が続き、学術の多様な成果が雑誌を通じて報告された。近代の雑誌に関する研究は、従来、フランスの『ジュルナル・デ・サヴァン』やイギリスの『フィロソフィカル・トランザクションズ』といった大規模雑誌に焦点が当てられてきた。一方、本研究で主たる資料としたのは医学・自然学雑誌の源流と見なすことができる神聖ローマ帝国の『医学自然学報 *Miscellanea curiosa, sive ephemeridum medico-physicarum Germanicarum academiae naturae curiosorum*』とデンマークの『コペンハーゲンの医学・哲学紀要 *Acta medica et philosophica Hafniensia*』である。両雑誌は各国における最初の学術雑誌として言及されるものの、その性質や特徴、両雑誌間の影響関係、学術上の位置づけ等、未解明の課題が多く残されている。これらの課題を明らかにするため、複数の雑誌を対象に、論考の主題と雑誌間の引用・転載状況、著者の変遷等を定量的にも検証する必要がある。

## 2. 研究の目的

本研究では雑誌における情報の選択、伝達、公開、共有という点に着目し、「雑誌刊行の潮流にあった17世紀西洋において、医学・自然学に関する雑誌がどのような背景と経緯、目的によって創刊され、また、以降の学術の展開にどのような影響を与えたか」を問いとして主に以下の3点の解明を目指した。

### 目的

1670年から1680年までを対象に、『医学自然学報』と『コペンハーゲンの医学・哲学紀要』を比較して両雑誌の特徴、相違、影響関係を解明する。

### 目的

『ジュルナル・デ・サヴァン』および『フィロソフィカル・トランザクションズ』において紹介、言及、引用、転載された『医学自然学報』、『コペンハーゲンの医学・哲学紀要』収録の論考を抽出、分析して、雑誌間の影響関係を明らかにする。

### 目的

神聖ローマ帝国およびデンマークにおける医学・自然学雑誌創刊の背景と意義を明らかにし、以降の学術の展開への影響を考察する。

## 3. 研究の方法

以下の方法により段階的に研究を進めた。

### 方法

1670年から1680年に刊行された『医学自然学報』の1-10巻を対象に、論考の著者、タイトル、報告の主題等をデータベース化した。この作業から同誌の刊行初期の性質や刊行の目的、医学・自然学雑誌としての先駆性を確認した。

### 方法

『医学自然学報』と『コペンハーゲンの医学・哲学紀要』に収録された論考から特に医学分野の論考の主題を検討し、いくつかのカテゴリーに分類した。また掲載された論考の著者についてその傾向等を確認した。

### 方法

『医学自然学報』および『コペンハーゲンの医学・哲学紀要』に収録された論考のうち、『ジュルナル・デ・サヴァン』および『フィロソフィカル・トランザクションズ』で紹介、言及、引用、転載された論考を抽出し、掲載年や言及の内容を確認した。これを踏まえて情報の選択、伝達の経路や伝達にかかった期間、および雑誌間の相互の影響を分析した。

## 4. 研究成果

本研究で設定した上記記載の目的および方法に即して得られた成果を以下に挙げる。

### 目的に関する成果

『医学自然学報』は神聖ローマ帝国のシュヴァインフルトに設立されたアカデミー (*Academia Naturae Curiosorum*) から刊行された。アカデミーによる活動と雑誌刊行の背景には、医学に関する知識を集積し人々の健康に役立てるといった目的があった。したがって同雑誌には医学に資する「動物」、「植物」、「鉱物」に関する報告が収録された。対象期間として設定した1670-1680年の間に刊行された1-10巻には約150人の執筆者による1500題以上の論考が収録された。創刊号のみに記載された分類に従うと、論考の内容は病理学

pathologia、自然学 physica、解剖学 anatomica、治療学 therapeutica、植物学 botanica、外科学 chirurgica、化学 chymica、数学 mathematica の 8 分野に分類される。初期には病理学分野に分類される報告が多いことが分かった。

『コペンハーゲンの医学・哲学紀要』は刊行者であるトマス・バルトリン (Thomas Bartholin, 1616-1680) の死により 5 巻で刊行が途絶えた。『コペンハーゲンの医学・哲学紀要』には全巻で約 50 人の執筆者による 590 題以上の論考が収録された。報告全体の 60% 以上が解剖や奇妙な症例、奇形の報告を含む医学関連の論考である。そのほか植物、地理、気候、コペンハーゲンの歴史に関する報告など収録論考の主題は多様であるが、人々の健康に役立つ医学の知識を集積するという雑誌の目的は『医学自然学報』と共通していた。

『医学自然学報』がアカデミーによる組織的な刊行であった一方、『コペンハーゲンの医学・哲学紀要』は基本的にトマス・バルトリン個人による刊行であった。比較によって、両雑誌に論考が掲載された医学者として Thomas Bartholin、Ole Borch、Johann Ludwig Hannemann などの 6 名が確認された。また『コペンハーゲンの医学・哲学紀要』の創刊以降は、デンマークの医学者たちによる研究報告の場が『医学自然学報』から『コペンハーゲンの医学・哲学紀要』に移ったことが確認された。

#### 目的 に関する成果

『ジュルナル・デ・サヴァン』および『フィロソフィカル・トランザクショズ』内で言及された『医学自然学報』と『コペンハーゲンの医学・哲学紀要』の記事内容を確認し、両雑誌の創刊が雑誌の読者層に速やかに周知され、かつ内容に関する情報や見解が迅速に交換されていたことが明らかになった。ただし論考の主題によっては類似の事例を紹介あるいは参照するために過去の報告が言及される場合もあった。

特に『ジュルナル・デ・サヴァン』に関しては 1665-1680 年までの刊行分を対象に、医学・自然学分野に関する論考を取り上げ、そのうち『医学自然学報』と『コペンハーゲンの医学・哲学紀要』から引用・転載された報告の有無を確認してそれぞれの引用・転載元を照合した。この作業によって医学、自然学に関する報告や図版の中に『医学自然学報』から引用、転載されたものが複数あることが確認され、『医学自然学報』が『ジュルナル・デ・サヴァン』に与えた影響が明らかになった。

#### 目的 に関する成果

17 世紀には各国で学術雑誌の創刊が相次いだ。『医学自然学報』の創刊もこうした潮流の一端とみなすことができ、雑誌というツールを通じて神聖ローマ帝国および周辺諸国の医学、自然学分野の学術と交流を支えた。同雑誌は特に『ジュルナル・デ・サヴァン』に影響を与えた。刊行母体となったアカデミーはその後 1687 年に神聖ローマ帝国皇帝レオポルド 1 世 (Leopold I, 在位 1658-1705) の庇護を受けて活動を続け、同誌も以降幾度か名称を変更しながら現在もドイツにおける学会誌として継続している。

一方、同じ潮流の中で、当時国内外に知られていた解剖学者トマス・バルトリンが刊行したのが『コペンハーゲンの医学・哲学紀要』であった。彼が教育を行ったコペンハーゲン大学はかつてルター派による改革を受け、1537 年にヴイッテンブルク大学になって再建された。再建によって医学教育も変化し、16 世紀中葉から 17 世紀にかけて解剖の重要性が高まっていた。バルトリンが解剖学の教授に就く数年前には大学に公開解剖施設が設置されている (1644 年)。こうした背景から自国における医学研究の基盤が整えられつつある中で各種の知見が整理、集積され、その後バルトリンを中心にコペンハーゲンから発信された学術情報が、初期には『医学自然学報』を通じて、後には自国の雑誌『コペンハーゲンの医学・哲学紀要』を通じて知られることとなった。報告内容にはデンマーク国内のみならず当時デンマークの統治下にあったノルウェーとアイスランドに関する報告も含まれる。刊行は短命に終わったが『コペンハーゲンの医学・哲学紀要』にはアルプス以北の情報を公開、共有する役割があったと考えられる。しかし出版当時、同誌が与えた影響はそれほど大きくなかった。例えば 1673 年版の『フィロソフィカル・トランザクショズ』内で紹介された『コペンハーゲンの医学・哲学紀要』創刊に関する報告はごく短い。デンマーク国内の学術の展開における雑誌創刊の意義こそ大きかったものの、以降に連続するものではなかったと言える。

『医学自然学報』と『コペンハーゲンの医学・哲学紀要』両雑誌に共通する特徴として、医師や医学者が実際に観察した、あるいは見聞した病態、治療の方法と経過、解剖や実験の結果が豊富な図版とともに集積された点が挙げられる。この点は自然学の分野に加え、歴史や宗教など広範な報告を含んだ『ジュルナル・デ・サヴァン』、あるいは各国の書籍の紹介や書評を多く収録した『フィロソフィカル・トランザクショズ』とは大きく異なっていた。

17 世紀以降、雑誌は学問の細分化に応じてその数と種類を増やし、現在まで、学術情報の公開と伝達、共有の役割を担ってきた。本研究では『医学自然学報』と『コペンハーゲンの医学・哲学紀要』が有する性格を明らかにし、どのような点に雑誌としての先駆性が見られたのかを指摘した。両雑誌は今日の専門特化した学術雑誌の一つの原型としても再評価することができる。

以上の成果を各年における学会、研究会および論文等で発表した。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 安西なつめ	4. 巻 56
2. 論文標題 The effect of imaginatio on the body as discussed in Northern Europe 's first scientific journal	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 待兼山論叢哲学篇	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安西なつめ	4. 巻 53
2. 論文標題 17世紀の医学自然学雑誌に収録された母親の想像（力）が与える作用の稀な例	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 メタフシカ	6. 最初と最後の頁 37-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安西なつめ	4. 巻 -
2. 論文標題 17世紀ロンドンにおける医学知識の広まりと実践 - 疫病対策としての養生・食事 -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 感染症と国際社会 研究報告集	6. 最初と最後の頁 39 - 44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安西なつめ	4. 巻 41
2. 論文標題 Miscellanea curiosa創刊号（1670）の報告者および主題の分析	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国際関係研究	6. 最初と最後の頁 61-68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 安西なつめ
2. 発表標題 学術雑誌創刊期（1665 - 1680）における医学分野の報告 Journal des scavansの分析を中心に
3. 学会等名 「フランス近世の 知脈 」 第10回研究会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 安西なつめ
2. 発表標題 ニコラウス・ステノの方法論 ステノによる筋、腺、脳、奇形の解剖
3. 学会等名 科学史学会京都・阪神支部共催例会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 安西なつめ
2. 発表標題 『医学自然学報』と『コペンハーゲンの医学・哲学紀要』の比較
3. 学会等名 第124回日本医史学会総会・学術大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 安西なつめ
2. 発表標題 17世紀ドイツにおける医学自然学雑誌の創刊
3. 学会等名 第122回日本医史学会総会・学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 安西なつめ
2. 発表標題 『コペンハーゲンの医学・哲学紀要』に掲載された解剖所見
3. 学会等名 第121回日本医史学会総会・学術大会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------